



まるで博物館のような写真展会場!?

DOCUMENT! 記録!

EXPRESS! 表現!

MEMORY! 記憶!

2023年度さがみはら写真賞★渡邊耕一さん

『毒消草の夢 デトックスプランツ・ヒストリー』

2023年10月に市民ギャラリーで開催された「フォトシティさがみはら受賞作写真展」。渡邊さんのブースでは映像が映しだされ、貴重な文献資料が並びました。写真展会場としては、少しばかり変わった鑑賞体験となったのではありませんか?

渡邊さんはデビュー作『Moving Plants』に次いで受賞作でも写真のなかに文化人類学的な視点を取り入れた写真表現に取り組みされており、結果としてこのような写真

展会場ができあがりました。写真表現を人類が手にして約200年。“リサーチ-ベースド・アート”というアプローチは人文社会学と写真表現を交錯させ、博物館と美術館の境目をなくす、写真表現の可能性を拓いてくれた気がします。日本人に馴染み深い「イタドリ」という植物がいまや欧米で侵略的外来種となっていること、「毒消し」という効能を「コントラリエルバ」という名前に結び付けて夢見て人びとが求めたこと。そんな時と空間を越えた人間の営みを写真が語ってくれる——。詩篇のように編まれた写真の鑑賞は人びとの今や未来、思考に刺激を与えるものとなって、もっと楽しい体験にしてくれそうじゃありませんか!



▲2023.10.6～23開催の受賞作写真展会場の様子



視覚障がい者とともにみると写真がもっとみえてくる

受賞作写真展では二〇一〇年の第一〇回から「視覚障がい者とともに写真をみる会」を実施しています。立体コピーを用意したり、写真家ご本人に

ガイドいただいたこともありました。最近では「対話で写真を読み解くスタイルに。写真をみる力は障がいの有無に関係ありません。むしろ、写真にひそむ音を聴く力は障がい当事者がはるかに優ることを実感します。『毒消草の夢』の鑑賞では、イタドリに触れてもらうことから始めました。フォトシティ実行委員が緑区の山で採取したのですが、お越しくださった視覚障がいのみなさん、別名・スキャンポとして味も形も承知の方ばかり。文献にあるコントラリエルバの葉をフェルトと糸で模したのものにも触れてもらい、先人たちの毒消しの夢を写真のなかに追いました。より深い鑑賞チャレンジとなりました。白杖の方とともに写真鑑賞

フェルトと糸で模した毒消草



渡邊耕一さん

渡邊耕一さんからさがみはらのみなさんへ

毒消草は、高さ20センチの歴史が同時に隠れています。ちくらの小さな草で、小さな植物から湧き出してくる物語は驚きの連続でした! 普段ほとんど目にすることはありません。写真の中のひとつひとつの植物には進化という地質学的な時間と人との関わり 皆さんにも写真を通してそんな生の感覚を追体験してもらえたらと思っています。



▲緑区で採取したイタドリ

◆見逃した方へ

以下の通り受賞作品展あります

開催期間：令和6年2月6日(火曜日)～2月19日(月曜日)

※日曜(2月11日・18日)は休館

※最終日は午後3時まで

時間：午前10時30分～午後6時30分

会場：ニコンプラザ東京 THE GALLERY

(新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー28階)

相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202